

第3次千葉県特別支援教育推進基本計画 ～一人一人が輝く共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進～

県教育庁教育振興部特別支援教育課

1 はじめに

平成19年、それまでの特殊教育から特別支援教育へと発展的に転換され、法令上位置付けられてから14年が経過した。特別支援教育という言葉は、県民にも浸透し、各教育委員会はもとより全ての学校において発達障害を含む障害のある子供たちへの支援体制が整い始め、教育の質の向上が図られてきている。

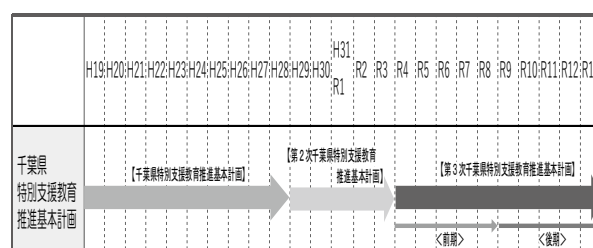
子供一人一人の教育的ニーズにきめ細やかに対応する特別支援教育への理解の深まりと共に、全ての学校、学級における教育への期待は大きくなっている。特に、医療的ケアを必要とする子供たちの学びや支援の体制、また、障害のある子供たちへのICTの効果的な利活用による学びの保障などについて、より一層の充実が求められている。

そこで、千葉県教育委員会では、このような背景や課題に鑑み、「第2次特別支援教育推進基本計画（平成29年度策定）」に示した「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」の考え方を引き継ぎつつ、更なる特別支援教育の充実を目指し、令和4年3月に、「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画（以下「第3次計画」という。）」を策定した。「一人一人が輝く共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」という基本的な考え方の下、5

つの重点項目・25の施策・130の具体的取組を掲げている。

2 計画の期間

第3次計画の計画期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とし、令和8年度までを「前期計画」、令和13年度までを「後期計画」と位置付けている。「前期計画」が終了する年度に中間評価を行い、そこで出された課題や今後の方向性等を「後期計画」に反映していくこととしている。



3 基本的な考え方と重点項目

(1)基本的な考え方

～一人一人が輝く共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進～

- 障害の有無に関わらず、誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築の基礎を培う教育の実現を目指す。
- 障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場と切れ目ない支援の充実を図り、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばす教育の実現を目指す。
- 障害のある幼児児童生徒が、地域社会の一員として積極的に活動し、豊かに生きることができると教育の実現を目指す。
- 障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒が可能な限り共に学ぶ体制の充実を図り、相互に理解を深める教育の実現を目指す。



第3次計画は、障害のある子供に対する教育のみに着目するものではなく、障害の有無に関わらず、誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築の基礎を培う教育の実現を目指していること、また、子供一人一人のよりよい成長には、最も身近な理解者であり支援者である保護者が、元気に活力ある生活を送っていくことが重要であることから、家族も含めて「一人一人が輝く共生社会の形成」の推進をしていく。

(2) 5つの重点項目と25の施策

I 障害のある子供の学びと切れ目ない支援体制の充実

- 地域で共に学び育つ教育の推進
- 就学前における早期からの相談・支援の充実
- 小・中学校における特別支援教育の充実
- 高等学校における特別支援教育の充実
- 特別支援学校における教育の充実
- 合理的配慮の充実と基礎的環境整備の推進
- 学校を支える外部人材や地域の教育資源の活用と充実
- 医療的ケアを必要とする幼児児童生徒への支援の充実

II 特別支援学校の整備と機能の充実

- 特別支援学校の計画的な整備
- 障害の特性に応じた施設・環境の計画的な整備
- 特別支援学校が有する多様な教育機能・支援機能の充実
- 多様な教育的ニーズに応える特色ある学校づくりの推進

III ICTの利活用による教育の質の向上

- 個別最適化した学びを実現するためのICT活用による指導の充実
- ICT環境の整備
- ICTを活用した関係機関との連携

IV 卒業後の豊かな生活に向けた支援の充実

- 自分らしい生き方を実現するキャリア教育の充実
- 生徒の自立、社会参加を支援するネットワークの充実
- 千葉県教育委員会における障害者の雇用に向けた取組
- 生涯にわたる多様な学びの機会の充実
- 障害に対する理解の普及啓発

V 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

- 特別支援学校教諭免許状取得の一層の推進と、未来を担う人材の育成
- 特別支援教育に関する研修の充実
- 学校・地域において特別支援教育の中核となる教員の育成と活用
- 特別支援教育推進に向けた学校経営の充実
- 異校種間の計画的な人事交流の推進

※各具体的取組については、第3次計画の冊子を参照のこと

進行管理においては、各取組の達成状況について、年度ごとに、県関係部局、関係部署と連携して確認していくとともに、有識者の知見も活用しながら、点検評価をしていく。

4 おわりに

第3次計画の施策や取組、進捗状況などについては、引き続き、県のホームページや広報紙の活用により、十分な情報提供及び分かりやすい説明に努めるとともに、障害や特別支援教育の理解を深めるための広報活動に更に取り組んでいく。

子供たち一人一人が、様々な生活や学習において、達成感を持ち、豊かで充実した時間が過ごせるよう、保護者の方々、教育関係機関はもとより、福祉、労働、保健、医療などの関係機関や企業などとの密接な連携・協力を図りながら、横断的、総合的に推進することに努めていく所存である。

学びの困難さに対する指導の手立て集について

県教育庁教育振興部特別支援教育課

1 はじめに

新しい学習指導要領は、小学校においては令和2年度から、中学校においては令和3年度から実施されている。

今回の学習指導要領改訂においては、特別支援教育に関する規定も大幅に改善された。

具体的には、特別支援学級等における教育課程編成の基本的な考え方や、通常の学級においても個に応じた指導を充実させるための教育課程実施上の留意事項などが一体的に分かるよう充実が図られた。また、学習指導要領の各教科等の解説においては、障害のある児童生徒への配慮が、それぞれの教科の学習を進めていく上で想定される「困難さ」「指導の工夫の意図」「手立て」の3段階で示されるようになった。

2 作成の経緯

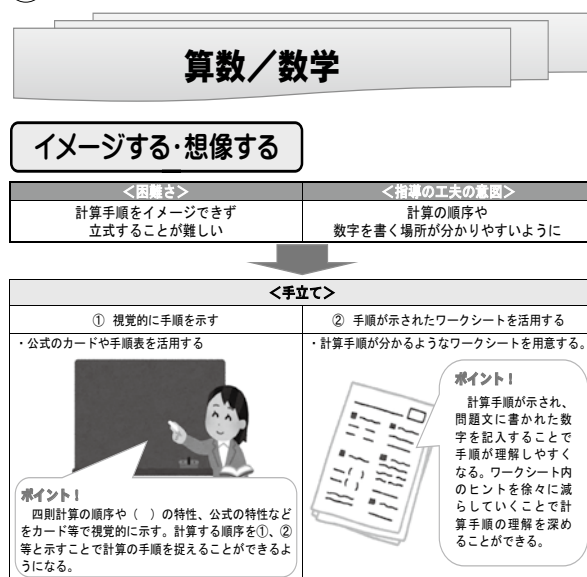
千葉県教育委員会では、学習指導要領を踏まえ、障害のある児童生徒の学習上の困難さに応じた指導内容や指導方法の考え方、実践が、先生方にとって分かりやすく、より身近なものになるよう、千葉県版の「学びの困難さに対する指導の手立て集」を作成した。



学びの困難さに対する指導の手立て集（令和3年度作成）

3 学びの困難さに対する指導の手立て集の内容

例



本手立て集では「各学級にこんなことに困っている児童生徒がいるのではないか」という視点から、手立てとして一般的な例を示している。特色としては、困難さの背景を「読む」「書く」「聞く・話す」「イメージする」「指示を聞く」等、児童生徒の目線で記載していることに加え、教科ごとに想定される具体的な場面に沿った手立てを多く記載している。しかし、困難さのある全ての児童生徒に当てはまるものではなく、また同じ困難さを抱えていても、必ずしも同じ手立てが有効であるとは限らないため、目の前にいる児童生徒にあった指導・支援の方法を見つける必要がある。本手立て集が活用され、全ての先生方が適切な指導及び支援を提供する一助となり、児童生徒等の十分な学びの保障へとつながることを心から願っている。

令和4年度企画展 「ネジる ツナがる ーモノ×ネジ×ヒトー」 会期：10月15日（土）～12月4日（日）

県立現代産業科学館

ねじは、長さ7mにもなる巨大なものから、太さ0.2mm以下の小さなものまである。今秋の県立現代産業科学館の企画展では、普段見過ごしてしまいがちな、身近な場面で活躍するねじに注目し、その歴史や特長、最新の技術などを展示と体験を通じて「楽しく」「わかりやすく」紹介する。

1 先人から、ツナグ

いつ人は「らせん」・「ねじ」という仕組みと出会ったのか。どのようにして現在使われているようなねじとなっていたのか。自然界のらせんから、らせんの働きを応用して紀元前に発明されたといわれるアルキメデスのスクリュウ式揚水機、レオナルド・ダ・ヴィンチのねじ切り旋盤など、ねじの歴史を紹介する。また、火縄銃に使われているねじや、江戸時代末期に幕臣・小栗忠順が持ち込み、日本近代化へのきっかけとなったとされるねじなど、日本史の中のねじについても触れる。

2 様々な働きで、ツナグ

現在、私たちの生活の中で使われているねじや、産業分野で使われているねじを、形状、材質、製造方法等により分類・整理するとともに、製造工程などを紹介。ねじが締まる原理や、締結（留める）以外の機能についても解説する。

3 思いを、ツナグ

様々な場所で大量に使われているねじは、多くの人の思いを叶える工夫がされている。

医療現場では、患者だけではなく医師や看護師の負担を軽減したいという願い。橋梁やトンネル、高速道路などの巨大建造物では、危険を伴うメンテナンスを行う作業員の安全を守りたいという願い。開発者の声とともに人々の思いをつなぐために生み出されたねじを紹介する。

4 未来へ、ツナグ

「千葉ものづくり認定」に選定された製品なども取り上げ、千葉県の製造業や、そこで働く人の姿も紹介する。また、県内の工業高校や高等技術専門学校、県内の理工系大学も取り上げ、職業選択の幅を広げる機会につなげることも目指した展示となっている。

街と街をつなぐ橋梁や電線に使われる大量のねじ。自動車を組み立てる約3,000本ものねじ。ねじは身近な生活に溶け込み、私たちの暮らしを支えている。

この展示を通して、普段目にするものの少ない場所で、人知れず大きな活躍をしている「ねじ」の姿を発見してみてはいかがだろうか。



ねじブロック 協力：橋本螺子株式会社

秋の展示「おはまおりー海へ向かう神々の祭ー」

令和4年10月22日（土）～令和5年1月9日（月・祝）

県立中央博物館

神輿が海や水辺に向かう祭り、「おはまおり」。東日本の太平洋岸に広く見られ、特に四方を海や川に囲まれている千葉県では各地で多様な形の「おはまおり」が行われている。

安産・子育て、豊漁豊作、疫病退散などの願いを込めて行われてきた「おはまおり」は、海とともに生きてきた人々の暮らしや文化を象徴する祭りであり、地域の人々の精神的な支柱となってきた。本展示では、県内約20か所の「おはまおり」を取り上げ、その歴史や意義、魅力について大きく4部構成で紹介する。また、会場では、海や神輿の塗り絵やワークシートなど、子供も楽しめる企画を実施する。

1 海に現れる神々の物語

海を舞台に繰り広げられる神話と、神話を再現する形で行われる神輿祭礼について、館山市の安房神社や東庄町の東大社の祭礼などを例に紹介する。



安房神社の祭礼と神輿（写真提供：安房神社）

2 武神と海の信仰

国土安泰を祈る武神の祭りは、海と関係が深く、次第に民衆の祭りとして発展変化してきた。これらを香取市の香取神宮や館山市の鶴谷八幡宮の祭礼などを例に紹介する。



寒川神社祭礼（写真撮影：吉野章郎氏）

3 民衆の海への祈り

豊穡祈願と疫病退散を祈る房総各地の海とハマの祭りについて、海岸部である南房総市の白間津日枝神社や、内陸部である印西市や成田市内での祭礼などを例に紹介する。



祭礼絵馬（いすみ市大井区蔵）

4 泥の祭

ハマの祭礼の特異な発展形態ともいえる泥の祭りについて、野田市や四街道市内での祭礼を例に紹介する。



四街道市和良比皇産霊神社祭礼（写真撮影：吉野章郎氏）

えぐちひさし 江口寿史イラストレーション展 彼女 ー世界の誰にも描けない君の絵を描いているー 令和4年10月29日(土)～令和5年1月15日(日)

県立美術館

県立美術館では、マンガ家・イラストレーターの江口寿史が、45年にわたって描いてきた女性像、約500点のイラストや原稿等を一堂に展覧する企画展を10月29日から来年1月15日まで開催する。

1 江口寿史について

江口寿史は1956(昭和31)年熊本県に生まれた。中学3年生の時に千葉県野田市に転居、県立柏高等学校を卒業後、1977年に21歳でマンガ家としてデビューした。同年より週刊少年ジャンプに、流山市を拠点とする架空のプロ野球チーム「千葉パイレーツ」を主題としたギャグマンガ「すすめ!!パイレーツ」の連載を開始。1981年から連載を始めた「ストップ!! ひばりくん!」で大ブレイクした。

同時代の若者の音楽やファッションを取り込んだ、斬新なポップセンスと独自の作画は、その後のマンガのスタイルを変革し、多様なジャンルのアーティストに影響を及ぼした。

80年代以降、イラストレーターとしても活躍、雑誌の表紙、本の挿画や装幀、CDジャケットや商品広告などの、魅力に富んだイラストレーションの仕事は高く評価されている。

2 企画展の概要

江口寿史の描くキュートでクール、お洒落な「女の子」は瞬く間に人気を博し、90年代以降は現代美人画のジャンルを独走している。

「第1章 遭逢 ポップの美神たち」では、CDジャケットや本の表紙画を縦横180cmや120cmの大型キャンバスに出力。ポップ感が炸裂する大画面に新たな魅力を発見できる。「第2章 恋慕 マンガからイラストレーションへ」では、連載マンガの扉絵や単行本カットの原画、デビュー当初から現在に至る幅広い

仕事を紹介。「第3章 素顔 美少女のいる風景」では、1999-2000年に描かれ、週刊コミック誌の表紙を飾った最後の手塗り作品群を紹介。これ以降はPCの画面上で着彩し仕上げている。「第4章 艶麗 ワインを持った女たち」では、2002年から現在も続くワインガイド誌の表紙のほか、その下絵や線画も展示。「第5章 青春 音楽とファッション」では多くのアーティストのために描いたCDジャケット画を中心に、若者の持ち物やファッションを描いた作品を紹介している。「第6章 慈愛 今を生きる彼女たち」では、現代を生きる普通の女の子の何気ない愛らしさ、動きのあるポーズやさりげないしぐさをとらえた作品を紹介。近年の仕事を代表する吉祥寺サンロードバナー20連作が見る人を圧倒する。



Shiggy Jr. 『LISTEN TO THE MUSIC』
CDジャケット 2014 ©2022 Eguchi Hisashi

本展は2018年から全国を巡回し、各地で大きな反響を得てきた展示である。コロナ禍の下、江口寿史がコツコツと積み上げた多数の最新作と地元「すすめ!!パイレーツ」の貴重な原画を加えた、2022年最新の江口寿史ワールドを県立美術館でお楽しみいただきたい。